

《トリスタンとイゾルデ》 あらすじ

船の上に二人の女性——アイルランドの王女イゾルデとそばに仕えるブランゲーネ。イゾルデは、腰に剣を下げた男を見て、驚きます。彼こそ、イゾルデの婚約者だったモロルトを討ち殺した騎士トリスタンだったのです。

船が向かう先は戦勝国のコーンウォール。イゾルデは平和のあかしとして、コーンウォールの王マルケの妻となるために、運ばれているのでした。

イゾルデはしかし、見も知らぬ王の妻になる気などありません。トリスタンへの復讐を誓い、毒薬をともに飲んで死のうとします。じつはイゾルデには、モロルトとの決闘で傷ついたトリスタンを殺せたにもかかわらず、命を助けてしまった過去がありました。その借りを返すつもりでトリスタンは毒杯を受け入れようしますが、ブランゲーネが二人に渡したのは「死の薬」ではなく、「愛の魔薬」だったのです！二人はたちまち恋に落ち、愛を歌いあっているあいだに、船はコーンウォールに着き、マルケ王が乗船してきます。イゾルデを心配するブランゲーネは、トリスタンの友メロートが疑わしげにトリスタンをみつめているのに気づき、不安になります。

夜中、マルケ王のそばを抜け出して、トリスタンと落ち合うイゾルデ。二人は「あなたはわたし、わたしはあなた、永遠にひとつ」と歌います。ブランゲーネの心配をよそに、二人は、この時が永遠につづいてほしい、ずっと夜であってほしい、いっそのまま死んだらどうだろう、とまで口にします。

そこへ、ブランゲーネが心配したとおり、トリスタンの裏切りを見破ったメロートが、マルケ王とともに乱入してきます。二人は毒を飲もうとするも阻まれ、トリスタンは覚悟を決めてメロートの剣の一撃を自ら受けたのでした。傷ついたトリスタンは、従者のクルヴェナールに助けられて逃げますが、イゾルデは取り残されました。

深い傷を負って眠るトリスタン——クルヴェナールが吹く笛の音に目を覚ましますが、自分がどこにいるのかもわかりません。船はトリスタンの故郷ブルターニュへ向かっているところでした。トリスタンを癒せるのはイゾルデだけだとわかってきたクルヴェナールは、イゾルデを取り戻す手はずも整えていました。しかしトリスタンは、ようやく駆けつけたイゾルデの腕の中で死んでしまいました。そこへメロートがやってきますが、クルヴェナールの返り討ちに。

ブランゲーネの告白により「愛の魔薬」の真相を知ったマルケ王が、トリスタンとイゾルデを許すために駆けつけるも、時すでに遅し。イゾルデは愛するトリスタンの面影に引き寄せられるように、静かに穏やかに、永遠の闇の世界へ入っていくのでした。